

中部の

エネルギーを 築いた

人々

電力王福沢桃介を支えた下出民義

下出民義は電力王福沢桃介の名古屋における事業上の協力者であり、福沢が進めた名古屋電灯、大同電力など数多くの事業に参加し、福沢を支えた。下出は名古屋に不在がちな福沢桃介に変わって名古屋事業を取り仕切る「留守師団長」(『下出民義自伝』)であり、「守成ならびに進出についてよくその守進と時期を運用」(『現代産業家大観』昭和3年12月)し、「凡て経営方針を樹つる者は福沢桃介氏に非ず、下出民義氏に非ず、福沢民義氏なり」(『現代人物伝』長江銈太郎 大正10年)と評された。



下出民義

(写真提供：東邦学園)

愛知石炭商会の創業

下出民義は文久元年(1861)、泉州岸和田(現大阪府岸和田市)に生まれた。明治18~19年ころ、安治川小学校(大阪)の教員・校長を勤めるかたわら、関西法律学校(現関西大学)に通った。その後、義兄となる西井直次郎に誘われて大阪石炭会社に関わり、明治22年8月名古屋に移り「愛知石炭商会」を開設し、名古屋紡績、尾張紡績、愛知セメントなどに九州

炭を納入した。特に、それまで利用されていなかった粉炭を紡績用燃料として薦め販路を拡大した。明治32年、北海道炭鉱鉄道の代理店となって「尾三勢湾内一手販売」を行い、同社監事(販売担当)の福沢桃介と知り合った。日露戦争時には、福沢の手配したノルウェー船で石炭を運び利益をあげた。

福沢桃介の名古屋進出の導き役

下出は福沢の名古屋進出にあたっての導き役となった。明治39年ころに知多半田のカプトピール、41年には資金難に陥った豊橋電気に関し福沢から問い合わせがあり、いずれも下出の協力で株式取得が行われた。明治42年2月、名古屋ホテルにおいて、来名した福沢桃介、三井銀行名古屋支店長矢田績、下出民

義の三者協議が行われ、業績の低迷していた名古屋電灯への進出が決まり、下出の手によって株式購入が進められた。福沢は、明治43年上期末に1万20株を取得して筆頭株主となり、6月常務取締役役に就任、下出民義も大正元年12月、取締役役に就任した。

福沢関連事業への協力

以後、下出は事業上の協力者として福沢を支えた。大正3年に福沢が名古屋電灯社長に就任すると下出も常務取締役となり、大正7年には副社長へと昇進し、福沢とともに木曾川の電源開発や周辺電気事業の合併、需要対策としての名古屋地区の工業化を推進した。電力関係では名古屋電灯、大同電力のほか、白山水力取締役、矢作水力顧問、そのほか電気製鋼所社長、木曾電気製鉄副社長、愛知電気鉄道取締役、名古屋棧橋倉庫社長など福沢関連事業の経営に手腕を發揮した。

名古屋電灯は明治41年4月名古屋市と報償契約を締結していたが、料金改定や事業合併の承認条項などが福沢の目指す事業拡大への制約となっていた。下出は、大正2年2月に市会議員(～大正10年)となっていたが、「政友会」派の有力議員として報償契約改定をめぐる、市長佐藤孝三郎とわたりあった。大正10年の選挙で政友会(当時「電政派」と呼ばれた)が敗れ、市会工作は実

を結ばなかった。しかし、福沢の進めた名古屋電灯の拡大・広域化は関西水力電気等との合併により実現し、これを機に大正10年12月、福沢と下出は関西電気(名古屋電灯後身)を辞任し、以後福沢は大同電力社長として活躍し、下出は常務として支えた。同社大桑発電所(大正10年3月運転開始)の建設のため木曾川に架されたに橋(老朽化で現在通行できない)は「下出橋」と名付けられ、橋塔には下出の揮毫で「下出橋」と記されている。

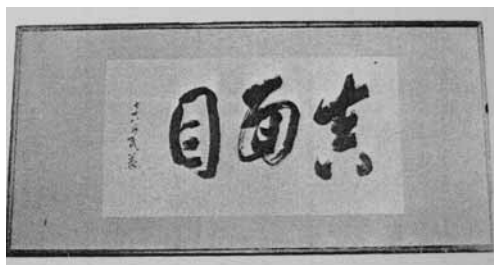
▼ 下出橋 ▶



(写真提供：茂吉雅典氏)

晩年の事業

下出は、大正9年5月には西春日井郡選出の衆議院議員に選出され、昭和3年からは貴族院議員(3期、多額納税者議員)に選ばれ



「真面目」下出民義書 (写真提供：東邦学園)

た。また、名古屋株式取引所理事長(大正12年～13年)、名古屋紡績社長(大正13年)に就任したほか、大正12年4月、「真面目な実業人の育成」を教育理念に掲げ東邦商業学校を創設し、校主となった。同校の名称は東邦電力に因んで名付けられたものである。長男義雄は下出民義の事業を引継ぎ、大同製鋼社長を初め数多くの事業を推進し、名古屋商工会議所会頭に就任して戦時下の中部経済界で活躍した。下出民義は、戦後の昭和27年8月92歳で没した。
(浅野伸一)

「福沢桃介の歩み」展

—生誕140年・没後70年記念—

主催：中部産業遺産研究会

後援：名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会

(財)名古屋都市センター、(社)日本電気協会中部電気協会

中部電力株式会社、関西電力株式会社、大同特殊鋼株式会社

福沢桃介は、1868(明治元)年に埼玉県で生まれ、1938(昭和13)年に東京で亡くなりました。今年2008年は、生誕140年、没後70年になります。

日本の電力王・福沢桃介は、名古屋を拠点に、日本の近代産業の発展と共に現在の中部圏の産業の一端を築き上げた実業家です。中部経済圏で活躍した福沢桃介の歩みと功績を写真パネルで紹介します。

また、「福沢桃介の生涯と功績」を語る講演会を開催いたします。

■ 場 所 (財)名古屋都市センター 金山南ビル11F まちづくり広場・企画展示コーナー

■ 開催月日 平成20年9月9日(火)～9月28日(日)

休館日：9月16日(火)、9月22日(月)

■ 開館時間 火～木曜日 ……10：00～18：00 金曜日 ……10：00～20：00

土・日曜日・祝日 ……10：00～17：00

会場の問合せ先 〒460-0023 名古屋市中区金山町1-1-1

(財)名古屋都市センター ☎052-678-2212 ホームページ <http://www.nui.or.jp/>

展示の問合せ先 中部産業遺産研究会(寺沢安正方)

☎052-831-8849 メール：terazawa@yk.commufa.jp

「福沢桃介の生涯と功績」を語る講演会

1 日 時 2008年9月20日(土) 13：00～16：30

2 場 所 (財)名古屋都市センター11F
まちづくり広場・大研修室 「入場無料」

3 プログラム

13：00 開会挨拶
13：05～14：05 福沢桃介の生涯
西尾 典祐(作家・前文化のみち二葉館副館長)
14：10～14：50 大同特殊鋼(株)の歩み
横井 信司(大同特殊鋼株式会社 大同会理事長)
14：55～15：10 休憩(15分)
15：10～15：50 木曾川水系の電源開発
蒲 敦司(関西電力株式会社東海支社 総務広報グループ副長)
15：50～16：30 福沢桃介と名古屋産業の近代化
浅野 伸一(中部産業遺産研究会)
16：30 閉会挨拶・終了予定

当日、先着順で入場無料です。

定員になり次第聴講をお断りします。あしからずご了承ください。